

2002年11月23日

発行:旭混声合唱団広報委員会

I 練習日程

月 日	会 場	時 間	備 考
11月 30日(土)	旭丘公民館	19時~21時	
12月	7日(土)	//	
	14日(土)	//	
	21日(土)	//	
2003年 1月	11日(土)	//	
	18日(土)	//	
	25日(土)	//	

新入団員さん:10月21日に須崎麻里さん,11月21日に大橋園子さんが入団されました。
旭混声ほさらにパワーアップ!!!

後っちゃんコーナー♪

橋詰ご夫妻です。(夫婦ものは久し振り,わくわくだなあ)

喬さん

O型

血液型

お互いの性格

長崎生まれのラテン好き。性格が明るなので私も救われる。(え〜、橋詰さんて暗いのお?)

趣味

テニス、デッサン(人物)これにコーラスを加えてバランスの良い感性を育てるようにしています。

ひろみさん

A型

1 頑固だが根はやさしい。

2 あまり物事にこだわらない。事を大局に見てくれるので、生活面は全ておまかせ。

3 行動的(いつも何かをしている)。

フラメンコ、写真(風景)、コーラス。

by.EM

たまたまなのかな?私がふっと見るといつもツーショット。いつも仲がいいんだ、って思っていました(まあ夫婦でコーラスやる人なんて仲良くに決まってるけどね)。私のおじいちゃんなんですが、カッコよかったんですよ。若い時はかなりもてたそうです。旦那さんってほんとにおじいちゃんに似てるんです。おじいちゃんと違って昔浮気しなかったんだらうか?って人事ながら心配になってしまふ私です。さて奥さんですが、入団以来隣で歌ってきました。若輩ものが言うのもなんですが、なんでも一生懸命、努力家ですよ(この間のカスタネットも本番にしっかり間に合わせたし)。何年コーラスをやっても'ドはドでしよう'としつこい私にくらべ'これは#がここだから何長調'とか言うのを聞いていると、見習わはなくてはと思うだけの私です。唯一、一緒にコーラスで早くデュエットを・・・との夢を持つ本当に仲の良い御夫婦です。

市民音楽祭の反省

神谷伸行

市民音楽祭が終わりました。反省会でもお話ししましたが、ホールの歌いにくさもあって疑心暗鬼になってしまい、少々トーンダウン・・・という結果でした。今後、尾張旭市民会館大ホールのような響きの悪いホールで歌う時は；

- ①あまり散らばらず、お互いが聞けるように一人一人大きめに声を出す
- ②なるべく客席に近い位置に立って歌う
- ③反響板など音響に関わる物理的障害をクリアできるよう交渉してみる
- ④会場が閑散としていると音響面や精神面で良くないので、お客さんをできる限り呼ぶ

それにしても毎回カラオケがメインで・・・というのは元尾張旭市民としても情けない限りです。

「ハン・・・キョウ・・・バンって何ですか？」という職員が仕切っているようでは仕方ありませんが、市側も形だけやりましたではなく、中身の濃い催しになるよう努力してほしいし、また団としても胸を張ってそう言えるだけの内容を保っていたいものです。

<特に改善したい点>

- ①自分のことで精一杯、という姿勢から脱する（余裕がない）
- ②一旦出した声に責任を持ち、一つの音をきちんと保つ（支えが甘いせいか非常に不安定。伸ばす音符もきちんと伸ばす。勝手に切らないこと。）
- ③レガートがブチブチに切れる（息をもっと回して）
- ④正しいテンポで（1曲目・・・男声が走り、女声が遅れがち。二十歳・・・ノれてない）
- ⑤コトバ（特に子音）をもっとしっかり発声する（“やりすぎ”でちょうど良いくらい）
- ⑥パート内の音程やトーンをそろえる（→団全体のサウンドを作る）
- ⑦フォルテで“かなり過ぎ”（“われもこう”の最初にはビックリ・・・）
- ⑧耳・発声の訓練

以上特に改めたい点として挙げましたが、②は特に大切な部分です。器楽をやっている人に比べてアマチュア合唱団の人（しかやっていない人）は、音符や休符の取り扱いという基礎的な点で甘さが目立つ。それでメンタルハーモニーだ、やれ心が大事だという。確かに気持ちや心は音楽をやる上で欠かせない本質的な部分ですが、音楽演奏上の約束事を度外視してそちら方面で何とかなると考えるのは非常に善った考え方であり、音楽に対する謙虚さを失った姿勢です。心が一つにならなれば、その上聴衆と連帯し、これ以上の出来はないといった演奏ができれば、それはもちろん理想でしょう。しかし自分のパートがきっちり歌えずにリズムもテンポもいい加減で、本番だけステージに突然“神風”が吹いてそういう極上の演奏ができるなんてことがあるのでしょうか？たとえ万に一つあったとしても、それははじめから期待すべきことではないのです。しっかり“心”を込められるだけの素地を作りましょう。

※指揮者神谷の改善すべき（とみんなは思っているものの果たして改善されるかどうかは確たる保証がない）点

- ①間違えた人のほうをキッとにらみつける。
- ②口が悪い
- ③栄養ドリンクを服用することにより機嫌の悪さが調節できる時もあるが、機嫌が直らない時の対処法が実は確立していない。

- ④途中からやり直しをするところからだかわからなくなり、皆をパニックに陥れる。
⑤不人気な曲を強引に続けようとする。
⑥練習終了時間が遅い。
⑦うまくいかないとすぐ顔に出る。

それぞれについて指揮者の見解・感想を述べます。怒らないでくださいね；

- ①特に本番ではなるべくしないようにしていますが、反射的に視線が行ってしまうですね。
- ②下町育ちゆえすみません。気をつけます。傷つけないよう配慮はしていますが・・・。
- ③ノーコメント・・・。
- ④無理なことは要求していないつもりですが、ウーン。これはしかし、指揮者と団員の呼吸が合っていない証拠ですかねえ。練習中は指揮者は、問題点に気づき、そこを取り出して集中的に修理するわけなので、「どこが今問題になっていて指揮者はどうしたいと思っているのか」ということを団員は常に意識していなければなりません。これは一般的な合唱団員の心得です。チョット早口は直さないと思いますが、皆さんもまた「いま神谷は〇〇小節のここところが気になっていて直そうとしているのだな。」というふうにその場の雰囲気、練習の意図、文脈を意識しながら参加していただけると練習がはかどります。でも、まあ、気をつけます。不明ならばすぐに言ってください。
- ⑤人生何でも勉強です、ハイ。
- ⑥反省。皆さんもパッと集まって7時に声が出せるようにしましょう。
- ⑦反省。心の中でグッとこらえているのですが・・・。やっぱりサングラスか覆面が必要ですかねえ。

[illegible]

檄

演奏会が来年5月、つまりあと半年と迫って参りました。先日の反省会で宣言したとおり、暗譜でいきましよう。できないできないと言ってばかりでは進歩はありません。“われもこう”だってかれこれ1年以上取り組んできているわけで、いつまでもダラダラと譜面にかじりついてはダメです。ところで、暗譜するとはどういうことでしょうか。

こんなことを言うと嫌われそうですが、敢えて言いますね。暗譜とは、「自分のパートの音と歌詞を、楽譜を見ないで歌えるように覚えること」と思っている人が多いと思いますが、これは違います。正確には、というか私の解釈は「自分のパートを、音や歌詞はもちろんのことダイナミクス(＝強弱や漸強弱)、テンポ、表情、ハーモニーの中での位置づけなど他のパートとどのように有機的に関連しているかを含めすべて把握(記憶)していて、指揮者の音楽的要求に即座にかつ柔軟に対応でき、かつ自己の表現力を最大限に発揮できるレベルに達していること」です。つまり早い話が暗譜とは、自分だけでなく他のパートについてもほとんど覚えていることが必要なのです。合唱はアンサンブルです。各パートが、他パートが何をどう歌っているかを知らずに自分のことだけを覚えて歌った結果、たまたま全パートが同時に声を出してハモったとしても、それが一つの合唱団としての演奏・作品と呼べるでしょうか。それならばいつもは4つの練習会場でそれぞれパート練習をして、演奏会ではたまたま集まってたまたま同時に歌えばよい。しかしそんなものではないはずです。音楽の演奏は、音楽が時間的芸術ゆえに1回きりです。パート間の音楽的呼応、響き合い、連帯といったものが豊かにあって、皆が一つの目的に向かって合わせていく。そのために各パートがいかに有機的に関連しているか、それを各人がいかにわかって歌っているかが大切なのです。そういう

気持ちで全パートを覚えようとすれば、知らないうちに自分のパートなんて覚えられてしまいます。

旭混声のレベルを上げたいと思っています。「つなぎ」であと何年やらせてもらえるかわかりませんが(くどいぞ)、人と違う音を出していながらそれが協和して良い気分になれる。ただしそのレベルに至るには随分努力しなければならない。でも、その努力は苦痛ではなく、楽しみなのだと思います。ハイキングのように、多少苦しくとも頂上で風に吹かれた爽快感を味わえばやめられなくなるのと同じです。合唱音楽を通じて、人生を豊かにしたい、そういう人たち(歌う側も聴く側も)の期待に応えられるような合唱団でありたい。練習場からため息や嘆息をなくしたい。どうせできないとか、覚えられないとかいった、後ろ向きな姿勢ではダメです。どうも負担感が先に来ちゃっているのです(違いますか?)。言い訳をして予防ネットを張ってしまったら進歩はありません。仕事でも日常生活でもそうでしょ? 週に1度だけ、それもたった2時間ほどの練習だから、そうそう目に見えた進歩は少ないかもしれない。しかし、だからこそ一度やった間違いは繰り返さないと言う強い決心で集中して取り組むか、やっぱりどうせ2時間じゃできるわけないじゃん、と半分後ろ向きに取り組むかでは結果は大きく変わってきます。スポ根ドラマよろしくスパルタ式に厳しくやれば進歩は早いかもしれない。でもそれでは皆さんの心や音楽が縮んでしまう。かといっていいわいいわで甘くしては進歩がない。仕事を持っている人も多い中で、週1回の楽しみで参加しているのだから、厳しいことを言われてガックリうなだれて家路につくのはイヤでしょう。私もそんな後味の悪い練習はイヤですし、第一怒るのは職場だけで十分です(あれ?)。だからこそ、一度できたことは必ず出来るようにする。そして心地よい緊張感の中で、今日はこれができるようになったと思えるような練習でありたいのです。

もっと自分に自信を持つてはいませんか。出来ないと言う前に、いろいろチャレンジしながら自分の可能性をもっと広げていこうではありませんか。目標は高めがよいのです。「10」を目指して結果は8や7でも、最初から「5」を目指して4か3止まりよりはるかに良いのです。旭混声は皆さん本当に仲が良い。しかしそれはともすれば甘えにつながる危険性を孕んでいます。「どうせ無理だ」という空気を作ってしまったら、お互いがそこに安住してしまい、進歩がありません。自分に厳しく。そして、ある時は他人にも厳しく。そういう緊張感がもっとあるといい。それから、他のパートが聞こえなくなるとつられてわからなくなる状態を脱したい。それはアンサンブルをしているとは言えないからです。「やればできる」の精神で、自信を持って頑張ります。そして、本当にいい演奏会だったと自他共に認められる演奏会にしましょう。私も微力ながら頑張ります。

つらつら勝手なことばかり述べました。最後に、以前出しましたが再度、作曲家故武満徹氏の言葉を借りて結びたいと思います；

歌うところ

人々が相集って歌うのは、すばらしいと思う。

性差や年齢の違いを越えて、共に歌うのは、すばらしいことだと思う。

人間の生き方は、ひとによって、それぞれ、さまざま。だが、合唱の美しい響きをつくりだすには、他人のうたを聴かなければならない。

そして、他人はまた自分の声に耳を傾けているのだということを知らなければならない。

うまく歌うのもだいじだけれど、合唱でなによりもだいじなのは、互いを信頼し、敬うこと。他人の声を好きになること。

そして、人間はそれぞれの顔かたちと同じように、めいめい違った声を持っているのだということに、驚きと歓びが感じられたら、あなたの合唱は、きっと、これまでより多くのひとの心を打つだろう。

武満 徹